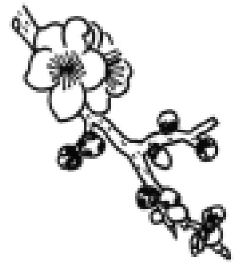
ひろば

2007年１月
No184
<発行>
日立小田原地区
ひろば
編集委員会
TEL「気付」
0465(37) 4426

寒中お見舞い申し上げます

みなさんと共に今年もがんばります



新しい年が始まりました。

年明けから「労働ビッグバン」と称してサラリーマンの違法なサービス残業を追認する政府財界の攻勢が強まっています。

バブル期を越える空前の利益を上げる大企業「いざなぎ」を抜いたと言われる好景気、私達の暮らしは何年もの賃金据え置きで一向に景気の回復が実感できません。

それどころか定率減税の廃止や相次ぐ社会保障費の改悪で家計は逼迫しています。

いよいよ春闘です。それにひき続き今年は一斉地方選挙、参議院選挙の年です。教育基本法を改悪し、平和憲法の改悪を狙い、悪政を推し進める自民・公明にその悪政と競い合う民主に審判を下す絶好の機会が訪れる年でもあります。

読者のみなさまとご家族のご健康とご活躍をお祈りします。

「ひろば編集委員会一同」

六戸山から富士山

新会社に対する新たな不安

昨年11月に発表された「日立の経営方針」によれば「高収益化に向けたグループ経営」を進化させるために連結子会社の経営の効率化や、ガバナンスを改善するため、グループ会社数を700社程度に削減していくことを目標にしています。

この方針に従ってか、今年1月1日付で「小田原ＣＭＳ」という孫会社の社名が(株) 日立ストレージマニュファクチュアリング(略称日立ＳＴＭ)という新社名に変更になりました。

この新設された孫会社(日立ＳＴＭ) には本体の日立製作所ＲＳＤ事業部から数百名の現場関連の出向者に加え、子会社の日立ＣＰの社員800名余りを併合し創設していく兆候をみせています。

日立ＣＰの社員は１月中旬より数十名単位で新会社への説明をしているとのことです。大量の移動には労組として全組合員に説明・検討をはかる必要があると思うのですが、労働条件の悪化に繋がる移動だけは避けるよう、労働組合の努力が求められます。

嬉しいお茶のサービス

昨年10月1日から自動販売機による無料のお茶、お湯、冷水のサービスが始まりました。

藤沢事業所を中心とした従業員による要望アンケートで特に要求の強かったお茶の無料サービスが実現したもの。

各棟の自販機で自前のカップでも無料の紙カップでも飲むことが出来ます。

少し前までは､お茶くみは女性の仕事とされ、給湯室でお茶のお世話をし、茶碗等を洗っている姿を見かけました。

そのような理不尽な「仕事」に抵抗し悔し涙をながしていた女性もいました。

隔世の感がします。

ひろば掲載URL http://www.hitachikon.net/hiroba

湘南の海

電機労働者懇談会春闘アンケートに深刻ともいえる労働の実態が声となって表れ、私たちの生活困窮を裏づける回答が多くなっています▼増税や社会保障費の大幅負担増で可処分所得が目減りするなか低賃金の是正要求が増えています▼人員削減で仕事量が多くなったにもかかわらず補充人員がない、長時間労働で家族との時間もとれない、残業時間が月百時間以上というのも頻繁にでてきます▼健康への不安を訴える声が多く長時間労働との関連で早急な解決をもとめている声が広がっています▼目につくのが「上司の行為によって不利益をこうむることがありうつ病や精神的に病んでる人や仕事を理由に追い込まれている」という声や、派遣社員への冷遇などが正社員からも多く上がっています▼07春闘で電機連合は二千円の賃上げ要求を決め動きだしました。格差景気といわれるなか、大企業の業績はおおむね好調だが日立は業績が悪く社会的信用失墜の事故も起こしたと日立労組の役員は発言しています▼相次ぐ労働法制の規制緩和で働くルールが後退するなか経営者が執拗に法案提出を要求している残業代ゼロ法案であるホワイトカラーエグゼンプションは働くルール改悪の総仕上げ的な法案です▼賃上げや長時間労働の是正などの要求とともに人間らしく働くルールの前進にも努力の必要があるのではないでしょうか。